

技術フォーラム ニュース

シンポジウム：[テーマ] 合意形成のプロセスデザイン

日時:平成 25 年 11 月 30 日(土)10:00~11:45

場所:港区新橋生涯学習センター 304 号室

講師:百武ひろ子氏

(有)プロセスデザイン研究所 代表

NPO 法人 合意形成マネジメント協会理事長

博士(工学)・一級建築士

早稲田大学非常勤講師

司会:岡 孝夫

主宰者挨拶

技術フォーラム理事長 原田 敬美 工博、技術士

本日の講演テーマは、百武氏の「合意形成のプロセスデザイン」です。お招きした百武氏は早稲田大学大学院穂積研究室の出身であり、私の後輩でもあります。また、米国のハーバード大学デザイン大学院を修了されており、当時のデザイン大学院長がピーター・ロウであったという点でも、私の後輩でもあります。



その後、研究分野を社会科学分野にも拡大し活躍されています。本日はエンジニアリング分野と違うテーマでお話いただけることになり、楽しみにしていました。

司会者(岡氏)

講師百武氏の経歴を紹介します。

1990 年3月:早稲田大学建築学科卒業

1992 年3月:同大学大学院修士課程修了

1996 年:ハーバード大学建築大学院留学

2002 年:東工大大学院博士課程入学

2006 年:博士(工学)取得

現在は、NPO 法人 合意形成マネジメント協会理事長、早大の非常勤講師としても活躍されておられます。

それでは講演をよろしくお願いします。

講演要旨:

本日の講演者百武氏は、参加型プロジェクトの企画・運営、社会的合意形成のコンサルティング、合意形成をリードする人づくりを通して納得の合意形成を実現するための活動を展開している。今回は、合意形成とは何か、合意形成のいろいろ、合意形成のプロセスデザインの仕方などについて豊富な経験に基づき解説していただいた。

1. プログラム

プログラムは以下のとおり。

- ・皆さんと興味・関心の共有
- ・自己紹介
- ・合意形成とは
- ・合意形成のいろいろ
- ・町田市廃棄物行政のケース
- ・プロセスデザインの重要性 - 解きほぐすとみえてくる -
- ・ふりかえり(ディスカッション)



2. 合意形成とは

◆なぜこれほど「合意形成」と言われるようになったのか、難しくなったのか？

・話し合いの能力が一般的に低下している・学校での話し合い教育が不足している・異なる世代で話しあう機会が少ない・価値観が多様化している、等が考えられる。

◆市民参加で本当に質の高いものができるか？

・やり方によって質の高いものができると考える。ただし、質の高いものをつくるという意識と信念を持つことが不可欠。

◆合意形成とは、「意見を合わせて形を成す」ことである。

◆合意形成の周辺として、合意を目的とせず気軽な対話を促す“ワールド・カフェ”等が最近よく実施されている。

◆目指すべき合意形成

・第三者が“良いものができたね”と感じてくれるもの。

◆2つの納得が必要

①合意の内容に納得できる

②プロセスについて納得できる

(100%納得できる合意はむずかしい。気持ちの収まりが大事。そのためにはプロセスが大切。中立的で公正、どのような意見もきちんと取り上げる筋の通ったプロセスにたとえ最終合意が意に沿わなくても人は納得する。理屈だけでは納得しない。)

◆ NPO法人合意形成マネジメント協会の考える「いい合意形成を実現する基本的な考え方」

① 多様な価値観の存在を認める

② 異なる立場の根底に潜む価値を掘り起こす

③ 情報を共有する。

④ お互いに納得できる解決案を(協働で)見いだす

⑤ 合意形成をプロセスで考える

◆ 専門家と合意形成

参加者の思いつきの意見を寄せ集めても質の高い解決策は生まれない。きちんと学習したうえで話しあうことが必要。どのような学習が建設的な話しあいを行う上で有効か、また同じ課題に取り組んでいる他の事例についての知識、知見をインプットすることも話しあいを活性化するうえでは大事だがそこで専門家(技術者)の知識が役立つ。また、一般市民、特に直接的な利害関係者は、目の前のこと、短期的な影響に意識を集中しがちである。専門家(技術者)は、より広い視点からみた対象および課題の位置づけ、専門家ならではの異なる視点の提示、より長い期間で考えた場合の影響など、一般市民がつい見落としがちな重要な視点を話しあいのプロセスのなかで適宜インプットするという役割が期待されている。

3. 合意形成のいろいろ

◆楽しい合意形成、つらい合意形成

・楽しい合意形成: 参加者の創造性を刺激し、引きだし、生活のリアリティのある解決策へと結晶させる。学習も非常に大事なプログラムである。

・つらい合意形成: まずは話を十分に聴くこと。参加者一人一人の気持ちに寄り添うこと、寄り添える環境づくり、しっかりとしたぶれない中立・公正なプロセス。

◆町田市廃棄物行政におけるいくつかの異なるタイプの話しあいの例が紹介され、それぞれの話しあいにおける合意形成にいたる苦労話、ノウハウの説明があった。

廃棄物資源化施設をどこに建設するかというつらい合意形成では、場所について意見を聞くのではなく、選び方の方法について意見交換を繰り返した。シビアなつらい合意形成ほど、プロセスに忠実に厳密に丁寧に行う必要があること等の話があった。

4. 合意形成のプロセスデザイン

プロセスの設計:話しあい始める前に、プロセスの設計をすることが大切である。プロセスの設計をしっかり実施が成功のカギを握る。以下の手順で設計する。

1) 基本フレーム設計

合意形成の必要性、解決すべき課題、アウトプットイメージ、タイトル、合意の使われ方、運営チームの結成、ステークホルダー分析、参加者の想定などを設計する。

合意形成の全体プロセスデザイン:

無理なく小さな合意を積み重ねていくプログラムでなければならない。プロセスは準備することで柔軟になれる。話の流れのなかで脱線することが重要な時もある。どこまで脱線すべきか、できるのかは、予めプロセスを準備することで想定することができる。

初めの掘り起しはじっくり丁寧に、まとめはスピード感をもって実施することがよい。

話しあいの場の外とのコミュニケーション方法も検討しておく必要がある。

2) 話しあいの事前準備

以下の準備が必要である。

- ・話しあい始める前に必要な関心の喚起のためのイベントの企画・開催
- ・毎回のワークショッププログラムの作成
- ・話しあいに必要な資料、道具、人(アドバイザー、話題提供者等)の準備
- ・話しあいの場の選定、話しあいの場のデザイン

3) 話しあいのマネジメント

話しあいにあたっては以下のマネジメントが必要である。

- ・関係機関との調整、話しあいの内容とプロセスの広報・話しあいの場の外の人たちとのコミュニケーションと話しあいの場へのインプット

5. 日本の合意形成とアメリカの合意形成の違い

◆日本の合意形成の手法にはアメリカで開発された手法が数多く導入されている。

◆これまで日本では、いい合意形成が実施されなかったかという、そうではない。日本の農村では、村人が力を合わせて問題を解決する必要があった。都市部でも、行政機能のほとんどが住民にまかされており、話しあいが不可欠であった。

◆日本の合意形成の特徴として、はじめから意見を持って話しあいの場に参加するのではなく、さまざまな意見を聞いてみて、その議論を通して自分の意見を見出していくという人が比較的多い。いい意味でも悪い意味でも、空気を読んで自分の意見を形成すると言える。一方、アメリカでは初めから意見をもって、その場に参加するケースが多い。“あなたはこれに対してどう思うか”と聞かれると、必ず自分の意見をはっきり言う。

◆ただし、日本と一口に言っても地域によってコミュニケーションの違いがある。また同じ地域でも市街地と農村部でもコミュニケーションは異なる。

◆なぜアメリカの手法に注目されているのか?

一つ考えられることは、現在では人々は考え方も立場もバックグラウンドも異なる人々、しかもお互いによく知らない同士で話しあうということに大きく変化したことによって、これまでの話しあいの仕方(委員会等)などでは対応できなくなってきたという社会変化がある。これは、多民族国家で価値観が大きく異なる人と合意形成しなければならないという歴史、文化をもったアメリカの方法論に着目するようになったのだと考えられる。ただし、そのまま日本にその方法論を持ち込んでもうまくいかないのは上記に述べたとおりである。私たちは、それぞれに一番あったスタイルを自分で見つけなければならない。

技術フォーラム 活動報告

1) 監査、研修講師派遣等実績

業務実績のある自治体等							
あきる野市、 磐田市、 川越市、 相模原市、 袖ヶ浦市、 西東京市、 東根市、 武蔵野市、 二十三区清掃一部事務組合、	旭川市、 牛久市、 清瀬市、 寒川町、 館林市、 日光市、 東村山市、 目黒区、	足利市、 江戸川区、 桐生市、 上越市、 調布市、 練馬区、 日野市、 守谷市、	厚木市、 大田区、 小金井市、 常総市、 所沢市、 野田市、 藤沢市、 八千代市、	足立区、 太田市、 国分寺市、 杉並区、 栃木市、 函館市、 前橋市、 山形市、	荒川区、 青梅市、 小平市、 裾野市、 富里市、 秦野市、 町田市、 和光市、	伊勢崎市、 鎌倉市、 狛江市、 墨田区、 長岡市、 八戸市、 三鷹市、	板橋区、 鹿沼市、 三条市、 草加市、 新座市、 八王子市、 水戸市、
技術監査・工事技術調査等の実績分野							
建築工事(設計、建築、電気、機械、空調)							
土木工事(道路、橋梁、河川、立体道路、駐車場、公園、競技場)							
上下水道(上水道、下水道、管渠、調整池)							
環境(清掃工場)							
情報(清掃組合の情報システム)							
業務監査(工事契約手続き、不正発注実態調査)							
情報(システム監査研修講師派遣)							
監査委員研修(東京 26 市、茨城県内自治体、静岡県内自治体、新潟県内自治体)							
技術職員研修(町田市、東京26市)							

2) 当会会員による関連雑誌記事、新聞記事、書籍等

1	「事業の無駄を斬る！技術専門家の目・総論編、建設編、環境編、情報編」 原田敬美、根本泉、高堂彰二、田吹隆明 月刊「地方自治職員研修」2006年1月号～4月号まで連載、公職研
2	「談合の根絶 外部監査で公正性確保」原田敬美 読売新聞「論点」2006年3月2日
3	「私の官民協働のまちづくりー東京港区長奮闘記」原田敬美 学芸出版社 2006.9.10 発行 ISBN4-7615-1217-2
4	「技術には専門の監査が必要だ！」NPO 地域と行政に支える技術フォーラム [編著] R&B ブックス 日刊工業新聞社 2009.7.15 発行
5	『重要性高まる技術内容の「監査」技術士の視点での設計・積算・施工の問題点をチェック』 日経コンストラクション 2009.11.27 号 66 ページから
6	「新潟県都市監査委員会定期総会での講演(タイトル:技術の専門区長から見た監査活動への期待)」原田敬美 上越タイムス 2013年5月22日
7	「経営に役立つシステム監査ー事業リスク分析評価～改善提言」小佐野市男 日刊工業新聞「課題に挑む技術士のソリューション」2013年6月11日

3) 当会主催のシンポジウム抜粋

1～20	当会ホームページをご覧ください。(http://www.efscs.jp/)
22	「再生エネルギーとスマートグリッド」 2012年11月24日(土) 港区立新橋生涯学習センター
23	「国土のリスクマネジメントを考える」 2013年2月23日(土) 港区立新橋生涯学習センター
24	「海外工事のリスク管理」 2013年5月25日(土) 港区立赤坂区民センター
25	「民間開発郊外住宅地について ～多摩田園都市を事例として～」 2013年8月31日(土) 港区立新橋生涯学習センター
26	「合意形成のプロセスデザイン」2013年11月30日(土) 港区立新橋生涯学習センター

1) 監査、研修講師派遣等予定(抜粋)(H25.11月30日現在)

	対象工事	分野	年月
1	某区	工事技術調査(土木)	平成26年12月
2	某3市	工事技術調査(建築)	平成26年12月
3	某市	工事技術調査(上下水)	平成26年12月
4	某2区、某2市	工事技術調査(建築)	平成26年1月
5	某区	工事技術調査(土木)	平成26年1月
6	某区、某市	工事技術調査(土木)	平成26年2月
7	広域行政団体	技術研修	平成26年1月
8	某自治体グループ	技術研修	平成26年1月

2) シンポジウム予定

今回のシンポジウムを以下にて開催します。

テーマ:パリ ゴッホの部屋の日々

講師:洋画家 中西 繁

日時:平成26年2月22日(土)10:00~12:00

場所:港区立新橋生涯学習センター
(新橋駅徒歩1分)

当シンポジウムへの参加ご希望の方は、氏名、所属を明記の上事務局へ

FAX:03-3404-0734

メール:info.efsc@efsc.jpまでご連絡ください。

3) 1日監査に関するパンフレット

情報と環境に関する1日監査のパンフレットがあります。御希望される機関はお申し付けください。

4) その他定例会活動予定

月例会

日時:毎月第2土曜日 10:00~

場所:港区立生涯学習センター

会員であれば、どなたでも自由に参加できます。

5) 会員種別

当会の会員は以下により構成されています。

☆ 正会員 (年会費¥5,000)

☆ 研究会員 (年会費¥3,000)

6) 当会ホームページのご案内

技術フォーラムの活動は、ホームページで詳しくご覧になれます。[\(http://www.efsc.jp/\)](http://www.efsc.jp/)

このニュースレター1号~25号についても、ご覧いただけます。

編集後記

当NPO法人では、3カ月に1回実施しているシンポジウムの内容を広く皆様に知ってもらうことを大きな目的に、年4回「ニュースレター」を発行しています。今月号は11月に実施したシンポジウム「合意形成のプロセスデザイン」と題して百武ひろ子氏にご講演いただきました。

合意形成についても、手順があることを実感しました。なお、百武氏は早稲田大学の建築学科ご卒業で、原田理事長と同じ研究室の出身であることが分かりました。

今後とも、皆様方の声をもとに講演内容を考えていきたいと思っております。講演内容につき、ご要望がある場合は、ぜひ下記ニュースレター事務局までお寄せください。その他のニュースレターに関してのご意見、ご要望も下記ニュースレター事務局までご連絡ください。

ニュースレター事務局: oka@cea.jp

特定非営利活動法人 地域と行政を支える技術フォーラム

TEL 03-3403-2325

〒106-0032 東京都港区六本木 3-14-9 妹尾ビル4階

理事長 原田 敬美